

1 鉄は体の中でどのような働きをしていますか？

鉄は生体内で必要不可欠な金属元素の1つです。多くは赤血球のヘモグロビンの成分として使用され、全身への酸素の運搬に寄与しています。鉄は過剰に存在すると細胞に毒性を示してしまうため、生体内の鉄代謝は巧妙に調節されています。成人の体内の鉄総量は3～5gであり、1日あたり約1mgが吸収・排泄されます。食事で摂取した鉄分のうち吸収されるのは、約8～10%といわれています。

検査のはなし vol.11

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること ⑰

「血清の鉄が低いと言われました」



日本臨床検査専門医会
増田 亜希子

2 血清鉄は何を示していますか？

血清鉄は血清中の鉄量をそのまま測定したものであり、体内の鉄動態を反映します。女性は月経があるため、血清鉄は男性よりも低値です。

血清鉄は鉄欠乏や鉄過剰を疑うときに測定されますが、必ずしも体内の鉄量を反映するとは限りません。本当に鉄欠乏であるかどうかは、貯蔵鉄の指標であるフェリチンなど、他の検査項目を確認した上で判断することが多いです。



3 血清鉄が低いと言われました。何が考えられますか？

①鉄欠乏状態、②鉄の体内の分布の変化、2つの可能性があります。最も多いのは、①鉄欠乏状態です。ヘモグロビンが基準値以下に低下した状態を貧血といいます。血清鉄が低く、なおかつ貧血の場合は、原因を確認した上で、治療が必要となることがあります。

●血清鉄低値かつ貧血を認める場合

①鉄欠乏状態：鉄欠乏性貧血が代表的です。日本人女性の8～10%で認められます。貧血の原因として、月経過多、慢性失血などがあります。妊娠時にも鉄の需要は増加します。

②鉄の体内の分布の変化：悪性腫瘍や慢性炎症など慢性疾患でみられる貧血では、鉄欠乏ではありませんが、血清鉄低値となります。ヘプシジンと呼ばれる鉄代謝ホルモンの分泌亢進により、造血に利用できる鉄が減少するためです。

●①と②を区別する方法

血清フェリチンが目安となります。血清フェリチン低値 (<12ng/mL) であれば、鉄欠乏性貧血と診断できます。一方、慢性炎症などで認められる貧血では、血清フェリチンは低下しません。

●鉄欠乏性貧血の原因

病院やクリニックを受診して、鉄欠乏性貧血と診断された場合、原因を確認することが重要です。特に、男性の鉄欠乏性貧血は要注意です。胃潰瘍や大腸がんなどの基礎疾患が隠れていることもあるため、必要に応じて胃カメラなどの精密検査が行われます。女性の鉄欠乏性貧血では、月経過多や妊娠などが原因となることが多いです。子宮筋腫など婦人科疾患の精査がすすめられます。